

令和8年度 学校自己評価(計画段階)

学校法人美萩野学園 小倉日新館中学校長

学校運営計画 (4月策定)			評価 (総合)		
学校経営方針		生活信条「自主自律」「創造立志」を教育の基盤とし、知・徳・体の調和のとれた教育で確かな学力と心豊かで創造性に富んだ人材の育成を目指す。			
本年度の目標 (昨年度の成果と課題)		本年度重点目標	具体的目標		
<p>本年度の目標</p> <p>1 昨年度に引き続き、生活信条を本校の教育基盤として「主体的」「対話的」に深い学びを推進していく教育活動の実践に努める。</p> <p>2 基礎基本の知識・技能の更なる充実を図ることで、幅の広い教育活動を実践し、「情報収集能力」や「コミュニケーション能力」を伸ばすことで、将来の「未来予想図」が描けるようにサポートしていく。</p> <p>3 「無形の力・不易流行」をを大切にしながらも、「是は是・非は非」と判断できる生徒像を創造していく。また、新しい形にも挑戦し「生徒自治」が行える集団の育成を目指す。</p> <p>4 「円満な人格の形成を図るため」に、生徒の健康な心身の育成及び将来に向けた社会的自立と社会参画を見据え、高い志と自律心のある心豊かな生徒を育成して人権教育への取組を大切にし学校行事等にも反映させていく。</p> <p>《昨年度の成果》</p> <p>1 生活信条を教育基盤とした教育活動を実践できたことで、基礎的・基本的な知識・技能の更なる習得や、思考力・判断力・表現力を育てるなど推進していくことができた。</p> <p>2 「円満な人格の形成を図るため」に、高い志と自律心のある心豊かな生徒を育成していく学校行事等を展開できた。</p> <p>3 職員のスキルアップ(授業力の向上)に向けた取り組みを加速させるためのICT機器を活用や教科間の連携を深めることができた。</p> <p>4 日々の意識を高め更なる人権意識の向上を図ることができた。</p>		<p>○授業改善をより一層進め、教育活動の向上を図り生徒が高い志を持って意欲的に学べる学力の育成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルシティズンシップ教育の更なる推進と充実した校内研究や研究授業をとおして授業力実践の向上を図る。 ・「授業で勝負」の理念のもと、確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力をつけたと実感できるように日々の授業改善を進める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価のさらなる充実を図る。 		
		<p>○「少し困難な目標設定」「生徒が安心して、主体的に取り組める最小限度の支援と手厚い指導」「達成感を高める賞賛、行動の強化」を実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動を通じて、他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく実践力を備えた人材を育成する。 ・個に応じた指導を行うことで生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。 ・地域社会と連携したキャリア教育を推進し、目標の実現に向けて諦めず努力する生徒を育成する。 		
		<p>○カリキュラムマネジメントを進め、本校の特色を生かした適切な教育課程をPDCAサイクルに基づき充実させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路に対応したカリキュラムで、生徒の自己実現に向け、第一志望進路の実現を目指す。 		
		<p>○教師と生徒の人権意識の高揚に努め、生徒一人ひとりの人権が尊重される授業づくりを実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神に涵養し、いじめ・暴力・差別等は絶対に許さない全人教育を行う。 		
		<p>○真のリーダーを育成し、更なる学校活性化を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の学校行事などの成功に向けて努力するリーダーシップのある生徒を育成する。 		
	具体的目標	具体的方策	評価(2月)		次年度の主な課題
教務部	個に応じた指導の実践	一人一台端末を効果的に活用した学習活動の更なる充実及び「主体的」「対話的」深い学びの実践。			
		爽やかな挨拶、規律ある学校を目指し、スモールステップの形成的評価を実践し、基礎基本の徹底を図る。			
教務部	高い志を持って意欲的に学ぶ生徒の育成	観点別評価の更なる充実とその質を高める。			
		授業中における演習や実習時間を確保することで、論理的思考力や問題発見力、行動力・実行力などについて能動的な学習態度を育てるとともに生徒の主体性を伸ばし、確かな学力の定着を図る。			
生徒指導部	自己指導能力の向上	一人ひとりの教育的ニーズに応えられるよう、学年・教科及び進路と連携を図り、適切な課題を課すとともに、学習時間の追跡調査などを行う。			
		主体的・対話的で深い学びが実現できるように「最小限度の支援」を実践し、生徒主体の授業づくり・授業改善に努めるとともに、ICT機器の積極的な活用や教材開発・研究を奨励する。			
生徒指導部	不易な部分を基盤とする指導を行う事で正しい発信力を身につけさせる	学校行事を通して、リーダーシップやフォロワーシップの精神を身につけると共に、共感的人間関係の育成を図る。			
		教育活動全般において、不易なものや流行を考えさせることによって、自ら考え適切な行動を実行できる能力を育む。			
生徒指導部	不易な部分を基盤とする指導を行う事で正しい発信力を身につけさせる	学校行事や学級活動を充実させ学校の活性化を図ると共に、ボランティア活動などの校外活動に積極的に参加させることによって、生徒の自己有用感を高めていく。			
		全ての教育活動において、「無形の力」「不易な部分」を意識した行動を生徒自ら実践できるような態度を育む。			
生徒指導部	不易な部分を基盤とする指導を行う事で正しい発信力を身につけさせる	SNSや携帯電話等の適切な使用などについて、常に情報を発信しながら、各種委員会での検討、道徳(人権)教育とも連携し、生徒自らモラルを大切にできるような態度を育む。			

進路指導部	生徒の自己実現の実現に向けた進路指導の実践	各学年ごとに進路に関する学習計画を推進していくことで、生徒自身の進路を自ら選択する力を養う。			
		グループ活動や学年及び学校発表の機会を増やし、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成に努める。			
		様々に外部との連携を図ることで、生徒の主張を外部で発表する機会の増加に努める。			
	進路希望の実現	第一志望への全員合格を目指せるように、生徒の進路希望を考えながら個に応じた進路指導を実行する。			
		実践力を身に付けさせるような授業内容を取り入れていけるよう各教科党と連携するように努める。また、様々な対策を早め早め実践し、生徒の進路意識の向上を目指す。			
		英語技能検定をはじめ様々な検定へチャレンジさせ、幅の広い進路選択を目指す。			
生徒募集部	幅広い広報活動	公開授業やオープンスクールなどを充実させ「見える」化ができるよう内容を見直し、計画を立てる。各分掌との連携を取り実施する。			
		塾・小学校訪問を計画的に実施する。全職員で訪問することで、職員の広報活動への意識を高める。			
		ホームページ等の円滑な更新に努め、新しい情報を常に発信することで本校の魅力を周知できるよう努める。			
研修推進課	新たな学びを推進し「主体的」「対話的」深い学びの更なる育成を図る	教員が自ら学び研鑽することによりすべての生徒へ還元し進路を保障する取組を推進する。			
		「新たな学び」⇒「学力向上」⇒「進路保障」へつながるPDCAサイクルの確立を図る。			
保健環境(指導)課	新たな学びを推進し「主体的」「対話的」深い学びの更なる育成を図る	保健行事及び保健指導及び教育相談及び職員研修の充実			
		学校安全の推進並びに環境美化の徹底			
道徳(人権)教育	豊かな心で創造性に富んだ人材の育成を図る	教育活動の全領域において人権尊重の視点に立った取組を推進する。			
		教員の道徳観や人権意識の向上を図る。「手厚い」指導を心がける。			
第1学年	小倉日新館中学生としての誇りと自信を持った生徒の育成を図る	時間やルールを守り、挨拶やマナーなど他者への配慮を大切にできるよう心がける。			
		各自の役割が果たせるよう、生徒一人ひとりが主体的に行動できる学年集団の構築に努める。			
		生徒同士で意見交換をする機会を多く設け、多様な考え方があることに気づかせ問題解決に向けて協働する姿勢を身に付けさせる。			
第2学年	中堅学年として他者と共同しながら、人間性を高め学力の充実・慎重を図る	中堅学年としての更なる意識の向上と、人間性豊かな学年集団を構築する。「手厚い」生徒理解・指導と、「最低限度の支援」を明確にし、個々の自主性を伸長するよう心掛ける。			
		授業の中で生徒が活躍できる場や協働活動を設定し、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める指導を実践していく。			
		的確な進路指導を行うために、職場体験などを通して各自の進路意識を高めさせ、将来の進路実現のため必要な情報を主体的に収集できる態度を育成する。			
第3学年	将来の希望を叶えるための進路実現と、一個人として成長できる生徒の育成を図る	自分が学びたいことを第一志望先で実現させるためどのような力が必要なのか、自分で正確に調べ、自ら学び、知ろう、理解しようとする態度を育成する。			
		教員自身が模範となって事業開始時と終了時及び学校生活の中で大きな声で挨拶し、学年全体に挨拶励行の良い雰囲気を作っていく。			
		多様な価値観を認め合いながら自己有用感・自己肯定感を高めるような声掛けを授業はもとよりすべての場面で機会を逃さず積極的に実践していく。			
建学の精神	たくましい生徒の育成	教育活動の全領域において知・徳・体の鍛錬、人権尊重の視点に立った取り組みを推進する。			
		全てにおいて前向きに取り組める雰囲気を作りながら、自ら学び向かう生徒の育成を目指す。			